

マット・スター

[エース・フレイリー、MR.BIG]

MR.BIGのワールド・ツアーで、闘病中のパット・トービーに代わって参加するマット・スター。彼は元KISSのギタリスト、エース・フレイリーのバンドを筆頭に、ダグ・アルドリッチ、ディジー・リードらのサポートとして活躍するベテラン・ドラマーだ。来日に先駆けてまだ日本では知る人ぞ知る存在である彼とコンタクトを取ることに成功。ツアーへの意気込みなどをうかがった。



『スペース・インヴェイダー』
エース・フレイリー
ピクチャー VICP-65222

当日が素晴らしい夜になって
音楽に没頭してもらえたらうれしい

●まずはドラムを始めた時期ときっかけから教えてください。

○12歳のときで、スクール・バンドに参加するようになったのが始まりさ。2ヵ月くらいはレッスンを受けたんだけど、先生がプレイするのはジャズだけだった。ロック・ビートなんて一切教えてくれないで、つまらなくなったんだ。そこで夏休み中に独学でデフ・レパードのアルバム『Pyromania』を練習して、レッスンを辞めた。それ以来、基本的には独学さ。また、今でもパートを分解したり説明したりと、生徒に教えることでもたくさんのごとを学んでいるんだ。

●プロになることを意識したのはいつ頃ですか？

○ツアーをするミュージシャンになるのが子供の頃からの夢だったよ。それが具体的にどんな仕事か知らない頃からね。KISSの『Alive II』の写真をじっと見つめては、彼らと同じ世界で生きたいと思っていたんだ。それ以外にワクワクすることなんて何一つなかったね。つまり、心の中で自分が求めているものだと思うし、それを諦めることなんてできなかったんだ。

●KISSといえば、あなたはエース・フレイリーのバンドに参加して来年もツアーを行いますよね？

○ツアーでは、俺がプレイしている『スペース・インヴェイダー』の収録曲をやる予定だ。リハーサルは数日から1週間なんだけど、今からエースと一緒にまたライブするのが楽しみだよ。それも、今回は新作の曲を披露するから、本当に最高だ。

●そんなあなたが今回、MR.BIGのツアーに参加することになった経緯は？

○1年ぐらい前にハリウッドでジャムっていたとき、ビリー（シーン／b）もそこにいたんだ。そのバンドと一緒にTNTやAC/DCなんかの曲と一緒にプレイしたら、ヴォーカリストが「ドラムを叩きながら歌える？」と聞いてきたので、実際にやってみた。多分それを聴いていたビリーが気に入ってくれたんだと思う。ビリーとはその夜にディープ・パープルの「Burn」と一緒にプレイし

俺の役割は他のメンバーが
良いプレイをできる
ソリッドな土台を作ること

たよ。そこから何度か連絡を取っていたら、今年の夏にビリーからパットの件を説明してくれて「代わりに参加しないか？」と言われたんだ。「もちろん！」と答えたよ。

●MR.BIGで演奏していかがですか？

○パット・トービーは驚異的なドラマーだ。彼には独特のパートの作り方があって……独特なんだけど、同時に非常に音楽的に聴こえるんだよ。彼が作ったドラム・パートを掘り下げてみるとわかるけど、実際に聴こえるものなんかよりもずっと複雑なさ。「Take Cover」はリニアなパターンなんだけど、実はこれまで俺が叩いたことのないようなものなんだ。メンバー全員がすごい才能を持った最高のバンドだし、何よりもツアーにはパットが同行してくれるのが一番だ。彼と一緒に過ごす時間を楽しみにしているよ。それに、とにかくライブ当日が観客にとって素晴らしい夜になって、

音楽に没頭してもらえたらうれしい。俺の役割は他のメンバーが良いプレイをできるソリッドな土台を作ること、その演奏で観客が素晴らしい時間を過ごせることを願っているんだよ。

●最後に、日本のMR.BIGファンに、メッセージをお願いします。

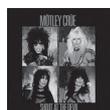
○ハロー！ ツアー前にもかかわらず、みんなからの応援は本当にうれしい限りだ。僕個人は前回の来日から10年経っているから、また日本でプレイできるのがとても楽しみ。今回は武道館でも演奏できるしね。みんなに会うのを楽しみにしているよ。アリガトウ！

Profile●Matt Starr: アメリカは東海岸出身。12歳でドラムを始め、ジャズドラムのレッスンを受けるが、モトリークルーのトミー・リーに憧れてロックドラムを志す。現在、ロサンゼルスを拠点として、ドラマー／ヴォーカリスト／プロデューサーなど、多彩な活躍を見せる。ドラマーとしては元KISSのギタリスト、エース・フレイリーのツアーやレコーディング・サポートも務める。2014年8月に、同年10月からスタートするMR.BIGのワールド・ツアーに参加することが発表され、注目を集めている。

Drumming Roots

～影響を受けたドラマー&作品～

d: トミー・リー



『シャウト・アット・ザ・デビル』
モトリークルー
ユニバーサル
UICE-20002

シンプル、パワフル、そしてクリエイティブな作品だ。

d: バーニー・E・カルロス



『チープ・トリックat
武道館』
チープ・トリック
ソニー
SICP-30115

ナチュラルなグルーブとフィールに最高にエキサイティングなフィルが満載だね。

d: コージー・パウエル



『スライド・イット・イン』
ホワイトスネイク
ユニバーサル
UICE-93463

熟練の演奏、伝説のドラマーが叩くソリッドなドラミングが素晴らしい1枚だ。